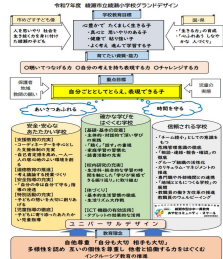


令和 7年度 綾瀬市立綾瀬小学校 学校関係者評価報告書(様式)

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	<p style="text-align: center;"><b>心豊かで たくましく生きる子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真心と 思いやりのある子</li> <li>・健康で 粘り強い子</li> <li>・よく考え 進んで学習する子</li> </ul>	
学校経営方針 (グランドデザイン)		
今年度の重点目標	<p style="text-align: center;"><b>自分ごととしてとらえ、表現できる児童の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてつなげる力</li> <li>・自分の考えを持ち表現する力</li> <li>・チャレンジする力</li> </ul>	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「自分ごととしてとらえ、表現できる子」を育てるために、学習指導に取り組んでいる。	学校としては、さらに意識的に思考力・判断力・表現力を磨くことができるような授業展開の工夫や教職員への研修を実施するとともに、保護者とも連携して、家庭においても協力していただけるよう働きかけていきます。また、地域教材の積極的な活用を推進し、児童や学校と地域とのつながりを深められるよう努めます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動をはじめ、学校生活にめあてを持って毎日を過ごしている。	1の設問の視野をより広げ、学校生活全般についての質問としています。児童・保護者共に、積極的の回答が8割を超えています。今後も学校行事等を含むカリキュラム全体を見直して、育てたい力をより効果的にはぐくめるよう教育課程の編成に努めていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「自他尊重」の学校づくりに取り組んでいる。	昨年度以上に積極的の回答が多い結果となりました。「真心と思いやりのある子」をはぐくむために、道徳教育や特別活動の充実を力点を注ぎ、引き続き「自他尊重」の学校づくりに取り組みます。互いに安心して過ごしやすい環境となるよう努めていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	通常の学校生活が稼働となり、全校児童が集まる集いの場が多く実施できました。認められる場が増えたことにより、今年度も多くの児童が「学校は楽しい」と評価しています。児童が「楽しい」と感じるためには、学校・教室が居心地の良い場であることが大切です。他者とのつながりを大事にし、学校生活を爽やかなものにしていきます。そのために、家庭・地域との連携を図り、引き続き授業改善や特別活動の充実を力点を注いでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための取組を行っている。	いじめの早期発見・早期対応に加え、すべての児童に寄り添い、普段から観察を怠らないこと、些細な変化であっても見逃さないことを意識しながら指導にあたり、いじめの「未然防止」に取り組んでまいりました。児童指導・支援グループを中心に、学校全体で教職員の意識を高めていくとともに、保護者との連携を大切に児童の人間関係づくりを支えていきます。
6 保健管理	学校は、「健康で粘り強い子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	教職員が、健康観察や健康指導を継続するとともに、規則正しい生活を促すための「生活リズム大作戦」や自分の健康に意識を持たせる「健康カレンダー」に取り組んでいます。「保健だより」などでは、学校の健康に関する様子を伝え、家庭との連携をとりながら取組の充実を図っています。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	来年度も、より実践的な安全行事を計画し、児童が自分の命を守る力を付けられるよう指導を重ねます。本校学区は交通量の多い道路が多いため、登下校の際は見守りなど、児童の安全確保のために地域の方が積極的に活動してくださっていますが、そういう方々と連携しながら、一人ひとりが交通安全への意識をさらに高めるようにしていきます。施設・設備については関係機関とも連携し、早急な対応を心がけます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫を行っている。	学校全体としての支援の体制は、充実したものになってきています。今後も児童指導・支援グループを中心に児童一人ひとりの保護者の教育的ニーズに応じた対応が組織的にできるようにしていきます。児童の居場所づくりのためにも、サポートチームの効果的な運営活用をSRAと共に考えていきます。また、今後も授業や学級経営の場面における支援の仕方などインクルーシブ教育についても職員研修を進め、全職員で足並みを揃えた授業を心掛けて取り組み、児童一人ひとりの実態に応じた教育活動の必要性を再確認します。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	今年度も、「自他尊重」の学校づくりに取り組み、「自分ごととしてとらえ、表現できる子」をはぐくむという重点目標に向かって、4つのグループの各担当や担任・学年等が取組を進めました。来年度も、カリキュラム・マネジメント会議を通して職員間で共有を図った「育たいたい資質・能力」につながるグランドデザインの具現化を図っていきます。また運営組織の見直しなどを行うことで働きやすい環境作りにつなげ、職員一人ひとりがゆとりをもって教育活動を行えるようにしたいと考えます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組を入れている。	総合的な学習の時間・生活科を中心に据えたカリキュラム・マネジメントに取り組みながら、さらにカリキュラム・マネジメントへの理解を深め、より効果的・効率的にはぐくみたい力が身に付く教育課程の編成を心がけます。また、授業改善の視点をもって日々の授業に取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のために工夫をしている。	引き続き一人ひとりの児童理解に努め、児童の主体的な活躍の場を多く設け、自己肯定感を高める工夫をしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	来年度も今年度の取組を生かし、教育活動の見直し等を進めていきます。「学校・学年だより」や「学級懇談会・個別面談」等の充実を図り、引き続き保護者や地域の方々へ教育活動を伝える努力をしていくとともに、地域ボランティア等との連携を推進していきます。また、コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会を定期的に開き、熟議等で教育課題等について協議し、地域とともにある学校を目指していきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちがインターネットから大きな影響を受けていることがわかる。あまりに多くの多様な情報にふれていることや、「身近な手本」「身近なライバル」「等身大の憧れる人」よりも、インターネット上の「極端な人物」と自分自身を比べてしまっていることで、自己肯定感が低くなってしまっているのではないだろうか。</li> <li>・自己肯定感を高めることは、小学生にとって難しいことだと思う。他者を大事にすれば他者からも大事にされ、自己肯定感が高まる。そしてこれは、学校でやってあげることではなく家庭でなされるべきことだと思う。</li> <li>・先生方のwell beingが子どもたちにとってのwell beingにつながる。</li> <li>・「いじめ」の判断基準とは、いじめなのかはつきりしない状況もある。</li> <li>・学校運営協議会メンバーで校内パトロールを行ったところ、先生方を敬っていない子の姿が見られた。学校に対して学校運営協議会はどのような協力ができるか伝えてほしい。</li> </ul>		